

2014年10月16日

ソフトウェア開発プロセスの国際的な指標 CMMI 成熟度レベル4を達成



CMMI DEV / 4SM

Exp. 2017-09-30 / Appraisal #23070

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社(本社:大阪市北区 代表取締役社長:前川 一博 以下:パナソニックIS)はこのたび、ソフトウェア開発およびシステム開発プロセス能力の成熟度を評価・判断する国際的な指標であるCMMI Ver.1.3の成熟度レベル4を達成しました。2014年10月現在公表されているCMMI Ver.1.3での成熟度レベル4の達成は、日本で9社目^(※1)となります。

パナソニックISは、2008年12月にCMMI Ver.1.2での成熟度レベル3を達成しました。その後も、より一層のソフトウェア品質向上を目指し、開発プロセスの改善に継続して取り組んだ結果、今回の成熟度レベル4達成となりました。これにより、ソフトウェア開発プロセスにおける組織の実力を客観的に評価していただけたと考えております。

パナソニックISでは、これを将来の飛躍に向けた通過点の一つと捉え、より高品質なシステム・ソリューションをお客さまに提供すべく、今後も邁進してまいります。

■CMMI(Capability Maturity Model Integration=能力成熟度モデル統合)とは

CMMIは、米国カーネギーメロン大学のソフトウェア工学研究所(SEI)で開発されたソフトウェア開発およびシステム開発を行う組織の成熟度を評価するモデルです。国際的に実績のあるプロセス改善のモデルとして、世界中の多くの企業や組織が採用しています。CMMIの達成状況を示す「成熟度」は下記の5段階で表されます。

成熟度	概要
【レベル5】 最適化している	欠陥の再発防止と予防に対する手段を持ち、組織として継続的なプロセスの改善に取り組んでいる
【レベル4】 定量的に管理された	プロセス・成果物品質などの定量的な目標を設定し、データを統計手法を用いて管理している。定量的に管理することにより、プロジェクトの将来的予測が可能となる
【レベル3】 定義された	プロセスが文書化・標準化され標準として確立されており、プロジェクトはその標準を活用して実施している。リスク管理が実施され、意思決定が合理的に行われる仕組みが確立している
【レベル2】 管理された	要件管理のしくみと、コスト・スケジュール・機能を計画し追跡するための基本的なプロジェクト管理プロセスが確立している
【レベル1】 初期	プロセスは場当たり的かつ偶発的でほとんど定義されておらず、成功は個人の力量に依存している

※1：登録されている組織単位で集計

以 上

※CMMIはカーネギーメロン大学の登録商標です。

※本文に記載されている会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

【お問い合わせ先】

報道関係者様:パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社 法務部 広報・IRグループ 仲本・山田
TEL. 06-6377-0100 FAX. 06-6377-0833 E-mail press@ml.is-c.jp.panasonic.com